スタッフご一同様

今日は、とっても楽しい体験をさせていただき、ありがとうございました。

スタッフの皆さんは、企画から準備、イベント中、片付け、反省会と、ここ数日間大変だったこととお察しします。お疲れ様でした。

さて、イベントに楽しく参加させていただき、食事もたくさんごちそうになりましたので、ささやかながら、感想というかたちでお礼ができればと思います。

こまごましたところは、きっとその日の反省会で協議されたことと思いますので、私からは、イベントを企画・実施する際に留意する「視点」について問題提起させていただきます。

今日のイベントで考えると、以下のように整理できます。

イベントの内容については３つ、各児へのかかわりについては２つ、それぞれに事前、事中、事後のスタッフとしての支援がどうだったかを振り返る必要があると考えます。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  | 事前 | 事中 | 事後 |  |
| ①イベントの内容 | 活動 |  |  |  | 活動そのものがどうだったか |
| 進行 |  |  |  | プログラム順、司会進行、指示などがどうだったか |
| 準備 |  |  |  | 道具、準備物、掲示物、がどうだったか |
| ②各児へのかかわり | 集団 |  |  |  | 集団としてのかかわり方がどうだったか |
| 個人 |  |  |  | 本人の障がい特性に合わせたかかわりがどうだったか |

さて、わたしが、今日参加させてもらって、振り返ったほんの一部を挙げてみます。

みなさんは、どのような視点から振り返りをされたでしょうか？

・活動（事前）・・・たいへんすばらしいと思いました。しいたけの収穫なんてふつうできません。そして、自らが収穫したその食材を食べることが目的的活動として設定されていることは、活動を企画する上でセオリー中のセオリーです。活動の選定については文句なしでした。

・進行（事中）・・・話の聞かせ方について、改善の必要性がありそうです。どうすれば、聞かせることができるのか、今後、みなさんなりの工夫を見てみたいです。もうひとつは、スタッフの動きについての指示が足りないように思いました。全体を見ながら、どの時点で、どのスタッフに、どう動くよう指示を出すかがとても大切です。その役割はPL（プレイリーダー）が果たしますが、役割を与えられたPLは、そのプログラム中は、たとえ相手が管理者であっても指示をして動いてもらうほどの責任を担います。

・準備（事前）・・・体験させたい活動のために、なにを、どの程度準備しておくかはとても難しい問題です。しいたけ収穫では、一人ひとりに危なくないはさみが準備され、自分が獲ったしいたけを入れるかごが一人ひとり準備されているのにはたいへん感心しました。そして、それを持ち帰って、自分が収穫したしいたけを食べる・・・これが大事だと思います。実際子どもたちは、「これがおれの！」と自分ごとにして体験を楽しんでいました。一方、ニンジン収穫は、少し残念でした。「自分の分」がわかりにくく、また、収穫のための準備が今一歩（手についた土を服でぬぐって服を汚してしまっていました）のように感じました。ただし、手袋など使わずに、素手でじかに土に触らせる意義もたいへん大きいものです。もし、そこをしっかり意味づけしたいのであれば、収穫時の説明で、そのよさなどをアナウンスするとよかったと思いました。

　　なお、この準備については、いったいなにをどこまで準備すべきなのか、さまざまな議論があることと思いますが、私見としては、「最初から目に見える所へ準備しておかない」ことをお勧めします。すべてが完璧に想定され、なにもかも最初から道具や準備物が用意されていたら、子どもは、スムーズに体験するかもしれませんが、なにも考えなくなります。こちら側が、子どもたちの反応を想定し、必要な道具類をすべて手の内に持っていながら、「しいたけをとるには、どんな道具があるといいかなあ？」なんて質問して、「はさみ」なんて言えば、「（エプロンのポケットから）タラララッタタ～♬はさみ～！」なんて取り出すのがプロの準備です。子どもの要求に合わせて、必要なものがちゃあんと準備されていて、求めれば出てくる…といった準備を目指したいものです。

・各児（集団）・・・活動そのものはたいへんよく吟味された素晴らしいものが準備されていましたが、とても残念だったのは、子どもたちの役割分担が、ほぼなかったことでした。子どもたち一人ひとりが、自分の食材を準備するのは、当然のこととして、今日参加した子どもたちが協力して取り組む活動、もしくは、子どもたちが、それぞれに役割分担をして取り組む活動がほしかったと思いました。記憶が正しければ、御社の事業所は、個別の活動と併せて、集団での活動も重視しているとのことだったと思います。集団での活動に取り組ませる場合、子どもたちがばらばらに活動して、たまたま何かがうまくできたとかではなくて、意図的にこちら側が仕掛けて、何かができるよう仕向けていくことが必要です。ぜひ、今後の検討材料にしてください。

・各児（個人）・・・さて、この視点は、ある意味、放課後等デイサービスで、もっとも重要な視点なのですが、今日、この子どもたちにとって、得られた「成果」はなんだったでしょうか？一言で言えますか？それは、この日参加した子ども一人ひとりの個別支援計画に挙がっている本人の課題（ニーズ）のどの部分を意識してかかわったか？が問われなければなりません。一人ひとりには、子どもとしての課題がやまほどあります。一度に、同時に、いくつもの課題に取り組むことなど到底できません。各児の個別支援計画のニーズの優先順位に合わせ、今日のイベントでは、この子のどんな部分に視点を当て、どうかかわるつもりだったのか、そこが検証されねばなりません。なんとなく、活動している中で、起きた事象やトラブルに対して、どうかかわるかといった対症療法的ではなく、あえてトラブル場面を意図的に生じさせて、「待ってました」とばかりに準備していたかかわり方で介入するといった仕掛けが大切です。療育とは、こういった意図をもった働きかけをすることだと私は思っています。繰り返ししつこく言いますが、子どもたちがたまたま起こした問題やトラブルに対し、どんなに的確な、美しい解決方法で対処できたとしても、そのこと自体は、そんなにすごいことでもないのです。ほんとうにすごいのは、スタッフが意図的に創りだした問題場面に子どもたちを触れさせ、そこで解決しようと努力する子どもたちが、自分たちの力で解決できるよう陰でおぜん立てをし、うまくいったことを子どもたちの手柄にしてうんと褒めてあげることができる力量なのです。

・最後に、漠然とした言い方で恐縮ではありますが、「**〇さん（参加させいただいた事業所名）らしさ**がほしいなあ」と思いました。よそとはちと違うこんなあんな取り組み、もしくは、かかわり方がぜひ目に見えるかたちで取り組みがあるといいなと思いました。

　乱立する放課後等デイサービスの中で、今後生き残っていくためには、事業所の独自性は必須です。「ただあずかっているだけで、何にも専門性がない」と職員をしこたま批判する保護者がうようよいる中で、今後、生き残っていくためには、避けて通れない道だと思います。活動内容には、就労系のお兄さんお姉さんたちとの交流あり、他でなかなか経験できない体験活動があるよさを生かし、かかわり方でもなにか叶さんらしさをぜひ創造していただきたいと期待します。

あれこれ長々と、しかも後半は、けっこう辛口だらけになってしまいましたが、私の経験から、よいものを見せてもらったときに、辛口モードのスイッチが入ってしまうという性格をどうぞお許しください。課題はあるものの、基本ベースができている活動を見せてもらうと、もっとよくなる、もっとよくなってほしいと気持ちが揺さぶられ、ついつい書きすぎてしまうのです。ほんとうによい体験をみせていただきました。ありがとうございます。

ただ、このようなイベントは、反省することももちろん重要ですが、それよりもっと重要なのは、事後の部分の振り返りです。今後どうしていくのか？二度目にはどうするのか？ここを考えることが、イベントの企画・実施の上で最も大切なところだと思います。ぜひ、今後さらによいイベントづくりにご努力を続けていかれますよう応援します。

そして、ぜひ、また、今後も継続して、一緒に学ばせていただきたいです。

合同会社サンクスシェア　田中 聡